

安全管理委員マニュアル・かんたん編

救急-緊急医療センター：011-221-8699, 救急安心センター札幌 24h：#7119, 011-272-7119

1 はじめに

本安全管理委員マニュアルは「科学の祭典東京大会 in 小金井」での、安全管理委員活動等をもとにまとめたものである。本マニュアルの文責は全て執筆者にある。改良のためのご意見等をお願いしたい。

A 当日までにやること

1 会場の見取り図を手に入れ、以下を確認する。

- ・ 非常口、消火器、ブレーカーの位置と通路(幅も含む)。
- ・ 会場内の温度調節や換気、照度。
- ・ (ブースが教室等になる場合) 出入り口、窓の位置。
- ・ 当日利用できるトイレや医療施設などの設置場所。
- ・ 停電の場合の非常電源など、非常時の対応。

2 出展者情報と会場図から、問題点の図上シミュレーションを行う。

2.1. ブースの並べ方について。

- ・ 非常口近くに事故がおきそうなブース、混雑しそうなブースはないか。
- ・ 実験をおこなう上で、隣同士で干渉し合うようなブースはないか。
(静電気と霧吹き など)
- ・ 混雑すると予想されるブースが隣り合っていないか。

2.2. 実験にかかわる試薬管理の方法などについて。

- ・ 物品および試薬等が適切な容器に入れられ、必要に応じて機器などは固定し、安全対策をとっているか。
- ・ 大規模に電力を消費し、「ブレーカ落ち」が心配なブースはないか。
強磁場の関わるブースも同様に検討する。
- ・ その他に臭気、騒音、振動等がでるブースはないか。
- ・ 引火物と熱源(裸火)が近くにないか。
- ・ 液体窒素、大量のドライアイス、ガスボンベなど持ち込んでいないか?
- ・ (事故を起こさない対策として) 換気扇や窓による通気は適切か?
- ・ (事故発生時時の対応として) 消火器は? 水場等は近くにあるか?

2.3. 運営上の問題について

- ・ 学生や生徒のみで運営していないか? スタッフの数・質とも大丈夫か。

3 問題のありそうなブースについては事前に連絡し改善を要求する。

実験内容、持ち込み器具の安全確認を再度おこなう。

- 4 安全管理委員のメンバーを集めておく。委員人数は重大戦力である。
- 5 関係者に挨拶回り。会場の救急担当の有無(看護師常駐など)を確認。
- 6 なるべく事前に会場に行ってみる。
- 7 会場に危険そうなところがあれば改善させておく。

階段、トイレ、子供の落下が心配な窓、ゴミ箱など...小さな子供達の目線を想定して確認しておく。

- 8 できれば、ブースの位置などあらかじめ微調整しておくとうい。
- (少し、下げておく。少し離しておく など)

B 当日の朝

- 1 会場に行き、到着安全管理委員の人数確認。班分けと打ち合わせ。

- 2 主催者にご挨拶。

- 3 なるべく早く会場巡回をはじめる。開会までに全ブースをまわりたい。

巡回の注意点については以下。

- ・ 挨拶。当方が安全管理スタッフであることを演示者に周知させておく。
- ・ 事前の情報通りの器物を持ち込み、実験準備しているか。
- ・ ブーススタッフ数は適正か? 足りないのにやろうとしてはいないか?
- ・ 実験道具の扱い、実験の実施方法が年齢層にあわせて適切なものか
万一の事故について考えているか?
- ・ 「事故が起きたら本部に必ず連絡」を確認。周囲に事故時の補助も依頼。
- ・ 会場の気温、換気、明るさなどの環境チェック
- ・ 混雑してきた時の対応について考えているかどうか確認。
- ・ 昼休みの対応について聞いてみる。(昼休みは留守番がいるのか、器具は全部片付けるこ

とになっているはず。片付けの準備はしてあるか。)

C 開会から午前中にかけて

- 1 入場の際、子供達を走らせないように注意指導。
- 2 ブーススタッフが適切に運営できているか、監督指導。
- 3 混雑してきた場合は列の「さばき」をお願いする。うまくできない時は本部と連絡を取り、こちらで最初は仕切る。その後、現場に戻す。
- 4 ブース案内、お手洗い案内、迷子、不審者対応、苦情の対応など色々と出てくるが「**にこやかに**」こなす。場合により本部と協議。
- 5 運営に少しでも不安、危険を感じたら、早めに注意し改善させる。
- 6 工作中的刃物の扱いについて、熱源（裸火だけでなく電球、ホットプレート、アイロンなど）の安全な使用について確認。
- 7 迷子がいたら本部へ。その他、トラブルに備え巡回を続ける。

D 事故が発生したら。

- ・まず、本部等に連絡。周囲に知らせる。近隣に被害が及ぶことがある。
- ・他の安全管理委員、又は本部要員を呼ぶ。ブース運営を止め、ケガ人等の救助搬出。(場合により警察消防に連絡。以下はそれ以外の場合)
- ・隣ブース、同室のブースに影響がないかすぐにその場でチェック。
(近隣に影響なく事故処理に支障がなければ本部判断で同室他ブースは営業を続けてもよい。)
- ・その後、当事者、本部立ち会いの上で原因追求、対応を検討。
・改善の手段がなく対応しきれない時は、本部と協議の上、残念ながら該当ブースの運営を中止させる。
(今までの経験では実際に中止させたことはない。改善させるよう説得し、その後、安全な実験運営法の改良に知恵を絞る。)

* 救急、消防、警察に連絡が必要な場合

- ◎勝手に呼ばない。救助や初期消火などを行いつつ本部と緊急協議。
- ◎呼ぶことになったら、その場担当のパトロール隊以外は必ずパトロールを続行すること。全員その場に集まらない。
- ◎必ず、車両等の誘導が必要。本部と連携して迷子にならないように適切に誘導。
- ◎来るまでの間に写真やメモなど記録しておくこと。
- ◎ケガ人の保護者などを必ず見つけておく。
- ◎救急の場合、本部付き添いが必要なので決めておくように。

F 昼から午後

- 1 巡回を続ける。初期の問題はこの頃は片付いているはず。
- 2 昼休みになると机上にハサミ、薬品等の放置が多い。完全に片付けさせる。又は留守を一人必ずおくように指導。ダメな場合、こちらで片付けてしまう。余裕があればこちらで留守番ということもあり。
- 3 昼食後は、スタッフが疲労し、慣れてきて油断するため、事故が起きやすくなる。第三者の目として問題ブースに注意喚起。又は小休止を勧める。
- 4 会場整備。落ちかけている廊下の掲示物、はがれかかってくるのが
多い床の養生シート、落ちているゴミなどを処理しながら巡回する。
- 5 次第に消耗品がなくなってくるが、ここで無理していないか見る。例えば、届け以外の危険なことをやりはじめていないか注意。
- 6 終了時には、片付け中の事故発生の可能性に配慮。観客の帰宅誘導。
反省会を行い、問題点を早めに共有しておく。

以上